

## 2017年プラスチックなどの容器包装 より良いリサイクルと3R 『第15回市民・自治体・事業者の意見交換会 in こおりやま』報告

**開催概要：** プラスチックなどの容器包装のより良いリサイクルと3Rにむけて、  
「第15回市民・自治体・事業者の意見交換会 in こおりやま」を開催しました。

郡山市 生活環境部長 吉田正美氏



郡山市と福島市の消費者団体の市民の皆様、郡山市生活環境部、いわき市生活環境部、2省、メーカーご担当者ら計33名の参加がありました。

郡山市生活環境部長 吉田正美氏からご挨拶があった後、清掃課の阿部課長からは、「郡山市における循環型社会に向けた取組み」ということで、郡山市でのごみ処理の現状の収集体制や分別方法などとペットボトル・プラスチック製容器包装類のリサイクルの取組みについて報告がありました。

郡山市生活環境部 清掃課長 阿部 雅行氏



NPO法人 福島環境カウンセラー協会 事務局長 新山敦司氏からは、「環境にやさしい生活とリサイクル推進の課題」ということで、容器包装リサイクルの実情として消費者、お店、リサイクル業で困っていることの報告とリサイクル推進のための活動について報告がありました。

NPO法人福島環境カウンセラー協会 事務局長 新山敦司氏



事業者からは、「プラ容器包装・ペットボトル 3Rと環境配慮設計」ということで、プラスチック容器包装の性質、材質、機能、リサイクルと3Rの取り組み、容リ制度、ペットボトルなどについて概要説明をしました。

プラ推進協議会 専務理事 久保直紀



また、グループごとの分科会では、分別排出・収集に関する問題、リデュース・リユース・リサイクル、海洋ごみ、環境に配慮した容器包装、環境教育や活動について、広い観点で活発な意見が交わされました。

**日 時** : 2017年8月25日(金)

**開催場所** : 郡山市立中央公民館3階 郡山市勤労青少年ホーム

**参加者** : 市民関係者7名

自治体/行政関係者8名

事業者18名

計33名

**主催者** : プラスチック容器包装リサイクル推進協議会

**協力** : PETボトル協議会



プログラム :

時 間	内 容
13:00~13:10	主 催 者 挨 拶 : プラスチック容器包装リサイクル推進協議会 専務理事 久保直紀 開催地代表挨拶 : 郡山市 生活環境部長 吉田 正美氏
13:10~13:30	自治体の取組報告 - 郡山市における循環型社会に向けた取組み - 郡山市 生活環境部 清掃課 課長 阿部 雅行氏
13:30~13:50	市民の取組報告 - 環境にやさしい生活とリサイクル推進の課題 - NPO法人 福島環境カウンセラー協会 事務局長 新山 敦司氏
13:50~14:10	事業者の取組報告 - プラ容器包装・ペットボトル 3Rと環境配慮設計 - プラスチック容器包装リサイクル推進協議会 専務理事 久保 直紀
14:10~14:20	***** 休 憩・移 動 *****
14:20~16:20	分 科 会 2グループごとに話し合い ペットボトルとプラスチック容器包装のリサイクルについて、日頃疑問に思うことや、問題点と感ずること、要望など事前にいただいたご質問も含めて、自由テーマで話し合う。
16:20~16:40	分科会まとめ報告
16:45	閉会挨拶

『リサイクル・3R・ペットボトルとプラ容器包装』に関して  
テーマを特に設けず、フリートーキングで、意見交換

進め方

1. はじめに自己紹介する。
2. 当日前半の市民・自治体・事業者の取り組み報告や、容リ法等に関する意見、日頃からの疑問、提案、指摘事項などを、ポストイットに各自記載し、テーマごとに論点を整理し、論点ごとに適切な人が回答し、意見交換を行った。

第1グループ

参加者 : 計 15 名  
市民 : 3 名  
自治体・国 : 4 名  
事業者 : 8 名



1. 3R/リデュースについて

F : リデュースについて、質問「事業者はリデュースの努力をしているか」、に対する意見を。

事 : 容器包装を薄く、小さく、軽くなど簡素化を進めるべく努力している。一方、破壊テストで強度が弱くなった容器仕様のため、手につぶれて中身が出て服が汚れたり、また薄くなった容器から酸素が多く容器内に入ったため、中身の色が変わったりすることに対し、消費者は我慢が

できるのか、意見を伺いながらバランスをとって製品化の実現に向け進めている。

事：毎年プラスチック容器包装リサイクル推進協議会では、このようなリデュースなど3R事例集をHPに掲載している。

国：一番重要なことは、中身を守ることである。容器を薄く、軽くしたことにより賞味期限が短くなったら、食品ロスの増大につながり、かえって環境負荷も大きくなることから本末転倒である。

民：詰め替え製品の場合、価格的に安いと感じればもっと広がっていくのではないかと思うので、環境のためにご検討をお願いする。

事：本体と詰め替え品で価格の差が出ないのは、お店の判断によるものと思う。

民：メーカーからもお店に是非プッシュして、安くしてほしい。

F：軽量化や薄肉化は、ある分野で伸びたり、逆に重量が増えたりしているが、全体としては、リデュースは進んでいる。

国：容器そのものより、中身の環境負荷（食品ロス）が大きいというのが現実である。

## 2. 3R／リユースについて

F：リユースについて、質問「リユースするビンは過去のものか」、に対する意見を。

事：牛乳ビン関係でもビン製品の量は明らかに減っている。消費者は、どちらかといえばビンよりも紙容器製品を望んでいるというのが実態と考えている。

民：何年か前は盛んであったが、現在は少なくなった。ビン製品はおいしいし、ビンを現金で買い取ってくれるが、持って行くのが重い。

F：世界的にもビンの使用量が減っている。ビンのリユースしているのは、大部分がビールビンである。

自：郡山市では、過去10年間で年間約100tを安定して出しているが、集めたものは、リユースしている。

F：ビンのリユースするためには、大きなエネルギーをかけているので、結果的に紙容器が増えていく。本当にビンのリユースが得であるのか考えなければならない時期に来ていると思う。

## 3. 3R／リサイクルについて

事：発泡トレイはリサイクル可能である。小売店のニーズに合わせて、トレイを差別化することが要望されているため、トレイの種類が多くなり、多様化している。賞味期限は、長くても3日間であるが、ハードカバーを付けると保存性が良くなる。

民：白物も色物も全部一緒に回収できないか。

事：自治体では、全部一緒に回収しているが、落札業者が選別している。基本的には、発泡系の単一素材をリサイクルしている。

事：発泡スチロールは、白物が基本であるが、軽いので色物に関係なく、機械選別できる。

民：ペットボトルのラベルが取りにくい。特にボトルの首からのラベルや醤油入りペットボトルの紙ラベルは剥がしにくい。

自：容リ協では、ペットボトルに紙ラベルが付いていると、落札価格が下がる。

民：自動販売機では、ペットボトルのキャップとラベルは付けたまま廃棄するが、良いのか。

F：今後は、自販機周りの回収についても、キャップ、ラベルの分別が進むように活動していく。

自：郡山市でのペットボトル回収は、基本的には週に1回、多いところで週に2回行っている。

自：家庭系プラスチックごみのリサイクル率は、20%と低いが、理由としては水分が多い生ごみなどの比率が高いため。

一方、生ごみ処理をしている所では、プラスチックのリサイクル率が高い。

事：プラスチックのリサイクルで、中間処理品がどこの業者で処理されて、どのような物になっているか、容器包装リサイクル協会のHPで見ることができる。

F：ペットボトルのリサイクル率は、日本 87%、EU 41%、米国 22%で日本が一番高い。日本は分別を厳しくして出していることと、ペットボトルは単一素材でできているためリサイクル率が高くなる。一方、プラスチックは、いろんなものが混在した状態で出されているのでリサイクル率が高くない。

自：資源化は重要だが、細かな部分で分別方法を難しくすると、年配者は出せない。

#### 4. その他、環境負荷に関することについて

民：ペットボトル製品の価格は、容器と中身の比率はどうなっているのか。

F：おおよそ、中身：容器=85：15 で、中身を 100 円とした場合には、容器は約 17 円となる。20 代、30 代ではPETボトルに対する価値観が高まってきている。情報をデータベースとし、解析した方が良い。

民：ペットボトルがどんどん増えていくと資源が枯渇する。

民：自然に戻るバイオプラスチック容器の使用について、企業はどう考えているか。

事：化石燃料に比べれば、価格が高い。まだまだ試験段階であり、効果も定かではない。

事：郡山市では、生ごみを焼却処理しているが、生ごみは熱量が少ないので、EUではコンポスト処理している。

その他、海洋ごみ、マイクロプラスチック、環境ホルモンの問題などが話題として出された。

また、リサイクラーの(株)中村環境から、実際にリサイクルをしている工場見学のツアー申込案内があった。

## 第2グループ

参加者： 計 15 名

市民： 4 名

自治体・国： 3 名

事業者： 8 名



### 1. プラスチックの分別・リサイクル

F：最初に、リサイクルに関して再生処理事業者の視点か不足しているという指摘ですが。

事：出前講座や工場見学、環境セミナーをやっている。学校では5年前までは、リサイクルはイコール分別だったか、今ではその先で何に変わっているかという話題になっている。それはいいこと。

そういうことでいうと、やはり分別。消費者の視線では、面倒くささ、大変さということが出ざるを得ない。ここにいる皆さんは、何に変わるか知っていますか、知られていますか。

F：リサイクルの行方がきちっと伝わっていないので、リサイクラーのやっていることが、伝わって

いないということです。

事：是非、現場を見てほしい。ずいぶん理解、認識が変わる。

F：リサイクルの行方、皆さんご承知ですか。

民：ペレットに出来るもの、出来ないもの。全くリサイクルできずに捨てなくてはならないものもある。

事：それは分別の問題か。

F：集まっているものが、すべてが再生ペレットになっている訳ではないことを理解して欲しい。

事：これは、非常に大事なポイント。みんなリサイクルで立派なものになっていると誤解している。プラ容器包装はいろいろな材質が混ざった混合物。何になるか、それを作るために、どれだけのエネルギーと資源を使うのか。リサイクルは分別だけでない。行程に対する環境負荷。リサイクルされた製品の価値。この二つを知らせるべき、知るべき。

事：材料リサイクルでは、使えるもの、使えないものでみると、収集されたうち半分しかリサイクルできない。半分は固形燃料化している。

F：材料リサイクルでは、収率が50%。なぜか。これと分別の関係どうなのか。

投入量は材料リサイクルが50%、残り50%がケミカルリサイクル。手法によって変わるが、ケミカルリサイクルは収率80%。リサイクルというと一般的には材料リサイクルだが、欧州・韓国と比べ、収率が違う。集め方、分け方も違う。特に材質仕分が大変。日本の法律の仕組みにも課題がある。

材料リサイクルでは、プラ素材はバージン材料には戻らない。プラ容器包装を製造している会社は、衛生面、コスト面でリサイクル材料を使えない。こうした苦勞が、消費者にわかると分別の仕方、リサイクルの取り組みが変わるのではないか。

民：いろいろ考えると法律を変えるのが一番よいと思うが、企業はそう思っているのか。

事：みんな思っている。

F：行政の方はどうですか。

自：今ある法律の中でしか動けないのが現実。

F：法律を変えた方がいいが、現在すでに仕組みがあり、なかなかそうはいかない。時間がかかる。それを理解することが先だろう。

自：廃棄物処理法は広範囲にわたっている。容器包装リサイクル法はその一部。

1年、2年単位でなく10年、20年スパンで考えるもの。日本の社会システムそのもの・人口問題・環境問題等から考えても、間違えなく変えていかなければならない。岐路に立たされるときがくる。リサイクル全体を見ながら、仕組みを変えられていくところは議論して変えていかなければならない。

F：リサイクルの流れの資料を見て欲しい。技術的に改善する余地はまだある。

## 2.店頭回収

F：分別の方法を分かりやすく表示してほしいとは。

民：店頭回収の上で、あれだめ、これだめでなく分別の仕方がわかるよう、どういう風にリサイクルされているか、伝えると分別の仕方がわかる。

事：店頭回収は比較的やりやすい容器包装をメインにやっている。PETボトル、紙パック、トレー。後のことを考えると、なるべくコストがかからないこと中心にやられている。店頭回収でプラスチック容器包装をやっているところはなかなか無い。

市民の方は、汚れ、透明・半透明等気にされている。混乱されている。

F：店頭回収、分別の仕方がわかりにくいのか。

事：店頭回収はマテリアルリサイクルをしやすいものがないのでは。東京では、アルミ缶、PETボトル、牛乳パック、白色トレイ、容リプラは見たことがない。リサイクルするにはプラは、単一素材の白色トレイとPETボトルの2点。店頭回収については、それが分かりやすくよいのでは。

F：店頭回収するのはリサイクルもあるが、容器メーカーのビジネスもある。やりやすいものだけやって、コストをかけないというのはやむを得ない。事業者は今の上では負荷がかかりすぎる、違う仕組みを考えなくてはいけない。表示までいかない、容リ法の表示に従った方がいい。

### 3.環境

事：消費者の皆さんは、商品を買うとき容器包装をみて環境に良さそうだから、工夫しているからという理由で買いますか。

民：一般的な消費者はそこまで考えない。適正価格かどうか自分にとってどうかで選ぶ。

事：そうですね、企業責任として売れる、売れないでなく、別の視点でやっていかなければならないと思う。

先ほど、シャンプー、リンス等、お年寄りには詰め替えにくいということから本体ボトルを購入したい、ニーズがあるということでしたが。実際は、パウチの方が普及してきた。スタートはいかに軽量化するか、企業は環境のため考えている。ボトルとパウチ、圧倒的にパウチの方が樹脂の使用料が少ない。

民：重さを考える。

事：重いということですが、例えば洗濯洗剤は、コンパクトで洗浄能力が同等のものを技術開発している。小さくしている。やはり、スタートは環境にどう配慮するか。パウチは日本独特のもの。環境負荷を少なくするかということを開発されたもの。詰め替えにくい、やりづらいということを開発していく。

事：実際、商品を販売する立場から売れないから置かない。やはり価格でパウチを買う。

売れる物しか置かない。消費者としては、買う時は価格がメインになる。

F：やはりポイントは価格、値段。安い方ということが決定的。

事：飲料メーカーとして経験では、利便性を犠牲にして、環境にいい商品を開発しても売れない。

消費者は利便性、価格、見栄えの良さで商品を選ぶ。環境の要素で選ぶことは非常に少ない。ここを考えなければいけない。消費者選択をかえるための消費者啓発を考えなければ。OECDの報告に消費者は環境を考えて製品を選ぶべきだとあるが、役割は政府がやるべきだとOECDは言っている。

民：企業は最終処分まで考えているか。マイクロビーズはどうか。

事：当社はマイクロビーズは入っていない。LCAサイクルを考え、環境を考えてやっている。

F：企業は、個社によって違う。個社毎に評価すべき。

生活の利便性とごみの話として新たな問題、みんなで取り組むべき、議論をすることが大事。個社を判断する。

民：この場に企業がでてきて偉いと思う。消費者の質問に一生懸命答えてくれてうれしい。

事：消費者が企業を変えていくという意識を。

#### 4.情報発信

民：先ほど発表があった郡山市のペットボトルの搬入と搬出の数字の大きな違いはなぜか。

自：分別ルールがあり、選別している。

F：異物等、また、指定袋も容リ対象ではない。

自：搬出基準があり異物混入、対象でない物を取り除くため、数字に差が出てきてしまう。

自：分別ルールの周知について、市町村によって、決められたルールに従って出す。

クリーンセンターで学校見学の際、時間が足りなくリサイクル分別の必要性とリサイクルの先まで行かない。周知徹底までにもっていくにはどうしたらよいか。

F：こういう話は絶対出る。いくらやっても徹底できない。

民：他の市では徹底的にやる。といていた。

F：情報の届かない市民もいる。普及啓発、経験的に参考になることありませんか？

事：周知徹底、あきらめずにやりつづけること。

自：市町村毎ルールがあるが、住んでいる市民の方々に選択肢が出てくれば守れるのではないか。

事：ヨーロッパでは分別収集をあきらめた。機械化した。

F：いろいろと情報が少ない。発信の仕方が問題ではないか。川崎のNPOの方は、毎週短波放送で情報発信している。そういうやり方もある。いろいろな方法を組み合わせて、どうやるかみんな声を合わせてやっていく。つまり情報発信をどうやるか。みんなが知恵を出してやるのが、すぐに出来ることとしてある。周知啓発は必要です。

#### 5.リデュース

F：リデュースの面、企業はどう考えていますか？とあるが。

事：容器を作る側は、3Rの推進は大命題。分かりやすいのが軽量化。軽くなればいいだけではない。

使い勝手、環境問題、バランスが難しい。できあがったとき、その苦労、努力がどれくらい伝わっているか。環境に配慮していることが、容器に記されているが見られているか。

民：見ない、読まない。

事：どうしたら伝わるか。HPに出ているが。

民：テレビCMなどで、言っていくしかない。

事：生協ではリデュースの面は、啓発していく立場。生活レベルで落としてゆく。スーパー等イートインで30分位の勉強会、生活の近いところでやっていく。5～10分の会話が大事ではないか。

F：連携がなかなかできていないので、呼んでください。

民：参加された企業の方々に感謝している。とても勉強になった。

#### <ファシリテーターまとめ>

##### ◎第1グループ

3Rと環境負荷に関することに分けて意見を出し合った。

##### ・3R／リデュースについて

3R推進連絡会の8つの素材でそれぞれリサイクル目標を立て、実績データを毎年度出してHPをリニューアルしている。

これ以上のリデュースは困難なのかという市民の声に対し、各メーカーでは常に簡素化を進めていること、またそれぞれの素材の団体は競争で目標達成に向けて努力している。

- ・ 3R／リユースについて

ビンのリユースは過去のものかという市民の声に対し、ガラス容器はなくてはならないが、常にガラスでなければダメなのか、環境負荷のバックデータを作る必要がある。

- ・ 3R／リサイクルについて

トレイについては、基本的にはトレイを集めて、分けていく技術はあるが、コスト的に厳しい。ペットボトルのラベルで取りにくいものがあるとの意見があった。メーカーのお客様相談室に意見を言えば、ラベルの統一はできないが、対応は早いと思う。

プラスチックについては、リサイクルの義務化が遅れたが15年目となり、フィードバックして改めて考え直す時期に来ていると思う。そして、そろそろ環境負荷を整備し視点を変える必要もある。事業者も努力しているので、実際のリサイクル現場を業者にお願いして見学するのが、現状を把握するのには一番早い。

### ◎第2グループ

分別の仕方とその後、どのように処理されているのか、という議論が全体の50%を占めた。

- ・ 店頭回収と自治体等とでは、分別、集め方が違う。関心が高いわりに情報がない。
- ・ 福島市での一人当たりのごみの量は、全国でワーストランキングに入っていると言われている。
- ・ 容器と環境負荷との関係では、容器を見て買うことはなく、値段である。環境負荷を考えて買うにはどうしたら良いか？個社ごとに努力している。
- ・ リデュースに関して、どう考えているか？事業者はコストとの見合いを検討、推進に努めている。

### ◎全体のまとめ

第1分科会、第2分科会ともに、十分な時間はなかったが、これを機会に事業者（製造メーカー、小売業者や容器メーカー）との話し合いを進められるよう、宜しくお願いします。

以上

